

公益社団法人日本地震工学会 第 32 回理事会議事録

A. 日時：2018 年 3 月 9 日（金） 16 時 00 分～19 時 00 分

B. 場所：建築会館 308 会議室

C. 出席者：（会長）福和伸夫，（副会長）木全宏之，塩原 等，清野純史

（担当理事）田中宏司，佐藤吉之，長島一郎，岩本浩祐，末富岩雄，田村修次，入江さやか，山口 亮，平田京子，高橋章浩，宮腰淳一，中尾吉宏

（監事） 當麻純一

欠席：（担当理事）秋山充良，（監事）飯場正紀

オブザーバ出席：小松康典事務局長，戸田薫子事務局員

D. 議題および提出資料：

報告事項

- | | |
|-----------------------------------|----------|
| 1) 第 31 回理事会議事録（案）の確認（佐藤理事） | 資料 32-01 |
| 2) 第 13 回 拡大正副会長会議報告（田中理事） | 資料 32-02 |
| 3) 会務報告（田中理事） | 資料 32-03 |
| 4) 会計報告（長島理事・岩本理事） | 資料 32-04 |
| 5) 広報部会からの報告（入江理事） | 資料 32-05 |
| 6) 情報コミュニケーション委員会からの報告（山口理事） | 資料 32-06 |
| 7) 会誌編集委員会からの報告（平田理事） | 資料 32-07 |
| 8) 論文集編集委員会からの報告（末富理事） | 資料 32-08 |
| 9) 事業企画委員会からの報告（宮腰理事・中尾理事） | 資料 32-09 |
| 10) 事業企画委員会（JEES）からの報告（高橋理事） | 資料 32-10 |
| 11) 事業企画委員会（国際、地震災害対応）からの報告（田村理事） | 資料 32-11 |
| 12) 17 WCEE 組織委員会からの報告（未定） | 資料無し |
| 13) 第 22 回震災対策技術展横浜ブース展示報告（田中理事） | 資料 32-13 |
| 14) メール審議（4 件）結果報告（田中理事） | 資料 32-14 |

議案

- | | |
|-------------------------------------|----------|
| 第 1 号 入退会者・会費未納者（長島理事・佐藤理事） | 資料 32-15 |
| 第 2 号 委員会委員の委嘱と外部委員（田中理事） | 資料 32-16 |
| 第 3 号 共催・後援・協賛等（佐藤理事） | 資料 32-17 |
| 第 4 号 研究委員会の期間延長と新規研究委員会について（清野副会長） | 資料 32-18 |
| 第 5 号 平成 30 年度事業計画（案）（田中理事） | 資料 32-19 |
| 第 6 号 平成 30 年度収支予算書（案）（長島理事、岩本理事） | 資料 32-20 |
| 第 7 号 今年度の表彰について | |
| (7-1) 功績賞（田中理事） | 資料 32-21 |
| (7-2) 功労賞（田中理事） | 資料 32-22 |
| (7-3) 論文賞（清野副会長） | 資料 32-23 |
| (7-4) 論文奨励賞（末富理事） | 資料 32-24 |

懇談事項

- | | |
|------------------------------------|----------|
| 1) 選挙管理委員会より（長島理事） | 資料 32-25 |
| 2) 次期理事会理事候補者の選考について（田中理事） | 資料 32-26 |
| 3) 理学・工学系学協会連絡協議会のご意見シートについて（福和会長） | 資料 32-27 |
| 4) 今後の予定について（田中理事） | |

報告事項

- 1) 第 31 回理事会議事録（案）確認
 - ・ 佐藤理事より資料 32-01 に基づいて第 31 回理事会議事録（案）の説明が行われ、異議なく承認された。
- 2) 第 12 回正副会長会議報告
 - ・ 田中理事より資料 32-02 に基づいて、3/2 に実施した第 13 回(拡大)正副会長会議の内容の説明が行われた。
- 3) 会務報告
 - ・ 田中理事より資料 32-03 に基づいて会務報告の説明が行われた。
 - ・ 各部会、委員会で、これら以外に行った活動があれば、総務理事まで連絡する。
- 4) 会計報告
 - ・ 長島理事より資料 32-04 に基づいて平成 29 年度予算の実績(平成 29 年 4 月 1 日～2 月 28 日)、決算見込みおよび平成 30 年度予算原案についての説明が行われた。
 - ・ 今年度予算は約 200 万円の赤字となっているが、本年度に入って新たに企画したシンポジウムの事業企画の収入等により、決算においては収支がほぼバランスしたものとなる見込みである。
 - ・ 資料 32-04-1 で事業活動支出の表のうち”決算見込み(B)－H29 年度予算(A)”の欄の計算式に一部間違いがある。式を直し、金額を修正した表を保存すること。
 - ・ 以上の修正を行った上で、本報告内容について承認するものとする。
- 5) 広報部会からの報告
 - ・ 資料 32-05 に基づいて入江理事から説明が行われた。第 30 回理事会で提案して承認された会誌の記者クラブへの配布を、No.32 号に引続き、2 月末発行の No.33 号について実施した。なお配布先としては、国土交通省記者会・気象庁記者クラブに、第 31 回理事会での意見を受けて文部科学記者会を加えた。
 - ・ 3/19 開催の南海トラフ地震に関するシンポジウムについての案内文を、上記の記者クラブに配布した。また、地盤工学会には講習会時に案内文の配布を依頼した。また共催学会および日本災害情報学会、全国地質調査業協会連合会にもメーリングリストを通しての案内を依頼した。
- 6) 情報コミュニケーション委員会からの報告
 - ・ 山口理事より資料 32-06 に基づいて前回理事会以降の活動について説明が行われた。JAEE News No.321, No.322 および NewsLetter を発行し、学会ウェブサイトのコンテンツのメンテナンスを実施した。また Newsletter 第 20 号(4 月末公開)の作成を進めている。
- 7) 会誌編集委員会からの報告
 - ・ 平田理事より資料 32-07 に基づいて会誌 No.33 発行の報告、会誌 No.34 の内容、編集スケジュールについて説明が行われた。会誌 No.34 は南海トラフ地震の特集を予定している。
 - ・ 会誌の執筆者に対する謝礼金に関する案の説明が行われ、審議した。謝金ゼロの団体は少ないので、学会の継続的發展を考慮すると、謝礼金は設けた方が良いという考えに対して、承認が得られた。

- ・ 謝礼金の年間の総額を決めて、予算化し、年発行の3号全体でやりくりする方針を決定した。総額としては、資料中に見込みとして年間27万円～30万円と記されているが、年間総額は25万円とすることに決定した。また、この案に基づいた謝礼金の支払いは新年度の6月から適用することを決定した。
- ・ 会誌の発行回数（現在年3回）とNewsletter発行回数について、情報コミュニケーション委員会と検討を行っている。会誌は1回の発行に約90万円の費用がかかるうえ、原稿の収集、レイアウト考案など、委員の労力もかなり費やされている。このようなコスト・労力および会員に対するサービス（満足）の3要素のバランスを考慮して、2つの発行物の最適な位置付けについて、会誌編集と情報コミュニケーション委員会とで検討して欲しいとの意見が出された。また会長から、検討については、新理事就任時に検討状況を説明できる位のスケジュールで進めて欲しいとの指示が出された。なお、発行回数の見直しについては、前回の理事会で決定した通り、再来年度に実施することを前提に議論していく。

8) 論文集編集委員会からの報告

末富理事より資料32-08に基づいて、2017年12月号（英文）および2018年2月号を発行したことが報告された。

- ・ 論文奨励賞2名を表彰委員会に推薦したことが報告された。

9) 事業企画委員会（企画）からの報告

- ・ 宮腰理事より資料32-09に基づいて、2/9の第8回震災予防講演会、2/15のE-ディフェンス実験見学会についての実施報告および3/19南海トラフ地震シンポジウムの準備、申込み状況についての説明が行われた。
- ・ 南海トラフ地震シンポジウムについては現時点で参加者申し込み104名である。
- ・ 申込み方法が、現在Wordファイルに書き込んで送付する方式となっており、やや面倒であるメール本文に書きこんで申込み、受付・返信する方式とした方が良いと考えられる。また「当日空きがある場合には当日参加も可能」の旨を付け加えると、当日まで予定の見通しが立たない方々の参加が増えるという意見が出された。
→以上の意見を反映した案内文を来週月曜に事務局から改めて送付する。
- ・ 今回のシンポジウムについては、企画に時間を要したため、広報の時期がやや遅くなった感がある。本来は1つ前の理事会で承認して、広報するくらいのスケジュールが望ましい。
- ・ 今回のようなシンポジウムの案内を送付する先（団体）は決まっているのか？
→決まっていない。
→今回の企画を機にどこに広報したのかについて、整理した方が良い。自治体などに対する案内も効果的であると考えられる。
- ・ 上記のような、企画の準備・広報手順を記した事業企画マニュアルのようなものはないか？
→マニュアルはないが、企画・広報の手順を整理して、今後の企画に活かすようにする。
- ・ 実験見学会で随行する理事の交通費等は予算に入れたのか。
→今回は含めなかった。企画の持続性を考えるとこのような必要経費は入れ込んだ方が良いので、来年度は検討する。

10) 事業企画委員会（JEES）からの報告

- ・ 資料32-10に基づき、田村理事によりJEESの準備状況についての説明が行われた。前回の理事会以降に運営委員会は開催されていないが、各部会で順調に準備を進めていることが報告された。
- ・ 学術関係として、3名の講師による基調講演案を作成し、講師に依頼を行った。また、オーガ

ナイズドセッションについては募集を締め切り、現在 5 件の応募を得ている。

- ・ 総務関係としては、後援名義使用の許諾、技術展示の募集を行っている。技術展示への応募は現時点でまだ低調（20 件程度目標に対して 5 件）であり、理事会メンバーにも協力を求めたい。
- ・ JEES 発表論文に基づいた論文集発行についての検討はまだ始まっておらず、JEES 予算では論文集発行費用は考慮されていない。（前回の理事会では、考慮されているとの事務局からの報告があったが、間違いであった。）論文編集委員会において、査読体制を含めて今後考える必要がある。

11) 事業企画委員会（国際、地震災害対応）からの報告

- ・ 資料 32-11 に基づき、田村理事により海外の地震調査対応等についての説明が行われた。
- ・ 前回の理事会での検討を受け、2018 年 9 月 19 日メキシコ中部の地震についての建築学会調査団への資金補助については、10 万円相当の費用を建築学会調査団から当学会に請求することになり、最終的には 50,100 円の請求があったことが報告された。
- ・ 当学会 HP の地震情報のページに 2018 年 2 月 6 日台湾東部のページを立ち上げた。調査団は派遣されていない。

12) 17WCEE 組織委員会からの報告

- ・ 今回は資料、報告はなく、4 月の次回理事会で報告を聴くこととなった。

13) 第 22 回震災対策技術展横浜ブース展示報告

- ・ 資料 32-13 に基づき、田中理事から震災対策技術展(2/8～2/9)におけるブース展示の実施報告が行われた。従来のパネルのみの展示に加え、本年度は福和会長より提供いただいた「ぶるるくん」の展示も行い、来場者の関心を引き付ける効果を感じた。

14) メール審議（4 件）結果報告

- ・ 資料 32-14 に基づき、田中理事から 12 月から 2 月にかけて行われた 4 件のメール審議の概要の説明が行われ、全て承認されたことが報告された。

議案

第 1 号 入退会者・会費未納者

- ・ 資料 32-15 に基づいて、佐藤理事から入退会者・会費未納者の報告がなされた。正会員の退会者 13 名、学生会員の退会者 6 名、法人会員の退会 2 件について異議なく議決された。本年度の会費未納者は正会員 35 名、学生会員 26 名となっており、3 月末までの納入を促している。3 月末まで未納の場合には資格停止を警告する。

第 2 号 委員会委員の委嘱と外部委員

- ・ 資料 32-16 に基づいて、田中理事から委員の委嘱 1 件、外部委員の委嘱 1 件、削除 1 件についての説明が行われ、異議なく議決された。

第 3 号 共催・後援・協賛等

- ・ 資料 32-17 に基づいて、佐藤理事から後援 1 件、協賛 2 件の名義使用依頼についての説明が行われ、異議なく議決された。

第 4 号 研究委員会の期間延長と新規研究委員会について（清野副会長）

- ・ 資料 32-18 に基づいて、清野副会長から、新規研究委員会の設置 1 件、現在の研究委員会の設置期間延長 3 件について説明が行われ、4 件とも異議なく議決された。ただし、期間延

長の案件のうち「各種構造物の津波荷重の体系化に関する研究委員会」については、昨年度も延長申請しているの、延長理由が昨年度と同様な内容になっていないかどうかについて確認を行うこととした。

第5号 平成30年度事業計画（案）

- ・資料32-19に基づいて、田中理事から次年度の事業計画（案）の説明が行われた。
- ・P.4の下から8行目の「平成29年度」を「平成30年度」の間違いであり、訂正する。
- ・本文中の年号表記について、西暦と和暦が混在しているので、西暦に統一する。
- ・以上の修正を行った案について、異議なく議決された。

第6号 平成30年度収支予算（案）

- ・資料32-20に基づいて、長島理事から次年度の事業計画（案）の説明が行われた。
- ・次年度の予算立案の方針として以下の2つの案が挙げられた。
 - 1)本年度と同様に当初は赤字予算とする。ただし社員総会においては、決算時には収支バランスする見込みであることを説明する。
 - 2)これまでの予算執行状況を考慮し、旅費等を現在の申請額から低減して、予算時から収支をバランスさせたものとする。
- ・審議の結果、2)の方針とすることが議決された。
- ・事務局から旅費、管理費についての削減案が示され、今回の収支予算案にその内容を反映したものを次年度の予算案とすることが議決された。
- ・なお各部会、各委員会において、年度内に旅費予算を使い切ってしまった場合には、会計委員・事務局と相談して、調整し、支出することにする。

第7号 今年度の表彰について

- ・資料32-21、32-22に基づいて、田中理事から功績賞2名、功労賞2名の推薦について説明が行われ、それぞれの授賞について異議なく議決された。
- ・資料32-23に基づいて、清野副会長から論文賞選考委員会において、2件の論文を平成29年度の地震工学会論文賞候補として推薦することを決定したことが報告された。各推薦論文に対する授賞について異議なく議決された。
- ・資料32-24に基づいて、末富理事から、論文集編集委員会において2名を平成29年度の地震工学会論文奨励賞に決定したことが報告された。

懇談事項

1) 選挙管理委員会

- ・資料32-25に基づいて、長島理事から選挙スケジュールに関する説明が行われた。
- ・選挙管理委員のうち村井和彦委員が転勤のため退任することになった。後任として稲井慎介氏が候補となっている。本件については次回理事会で議案として挙げ、審議することとする。

2) 次期理事会理事候補者の選考について

- ・資料32-26に基づいて、田中理事と福和会長から、来年度の新理事候補者の決定状況について説明が行われた。
- ・副会長候補としては、日建設計の鳥居氏にお願いし、内諾を得ている。

- ・総務担当理事としては、防災科学技術研究所の中村洋光氏に打診し、内諾を得ている。
- ・広報担当理事としては、入江理事から継続就任することについての了解が得られた。
- ・事業企画担当理事については、事業企画委員会からの推薦をお願いしたいと考えているが、候補者はいるか。
 - 現時点ではまだ決めていない。
 - 次回理事会までに、候補者を挙げ、内諾を得て欲しい。
- ・事業（大会）担当理事としては、京都大学の後藤先生から内諾を得ている。
- ・情報コミュニケーション担当理事としては防災科学研究所の久保氏を候補と考えている。
- ・会計担当理事としては竹中工務店の山本雅史氏が候補となっており、内諾を得ている。
- ・事業（WCEE）担当理事については、田中さんから中埜先生に問合せ、推薦者を挙げていただく。
- ・以上の候補者を4月の理事会前にまとめ、田中理事から理事・監事に連絡し、4月の理事会で決定することにする。

5) 理学・工学系学協会連絡協議会のご意見シートについて

- ・資料 32-27 に基づいて、福和会長から日本学術会議から日本地震工学会へのアンケート依頼についての説明が行われ、福和会長および小松事務局長が記載した回答案の説明があった。
- ・それぞれ学協会会員個人および学協会事務局個人の回答として、2通を送付することとした。

6) 今後の予定について

- ・田中理事から社員総会までの概略スケジュールの説明が行われた。
- ・次回（4月）の理事会では平成29年度決算の承認を行う。
 - 事前に資料を送付して、監事監査会を行う。日程調整は小松事務局長にお願いする。
- ・また、5月の社員総会での役割分担など（議事録作成など）を決定する必要がある。
 - 事前に議事次第などの資料を送付
- ・社員総会での講演は安田先生にお願いすることとした。依頼の結果については、田中理事に連絡して、各理事にも伝える。安田先生の都合が悪い場合は、改めて相談する。

次回予定：第33回理事会 平成30年4月16日（月）16時～19時

以上 この議事録が正確であることを証します。

平成30年3月9日

議長 福和 伸夫

監事 當麻 純一